

第5A（中）分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 「生徒支援体制の構築と教頭のかかわりについて」
～教職員の生徒支援の意識を高め、支援を充実させるために～

司会者	大分市立吉野中学校	屋田 清
提言者	大分市立植田南中学校	中根 文秋
助言者	別府教育事務所次長兼指導課課長	福田 秀樹
記録者	大分市立植田中学校	安東 研輔

1 協議の柱

「要支援生徒への支援の充実のために教頭の役割はどうあればよいか」

2 協議の実際

- (1) 別室登校の現状を把握
- (2) 支援生徒への教職員の意識向上
- (3) 発達障害に関する専門的知識の習得
- (4) 体制作りによる要生徒支援の対応

3 指導助言

- 教職員全体で、支援の必要な生徒への支援体制の構築を図っていることは素晴らしい。特に、Q-U等から客観的データを収集し、支援の必要度を検討している取組は参考になる。
- 特別支援教育は、生徒一人一人のニーズに応じて、指導・支援を検討し、教職員全体がその具体的な支援方法を共有化して、共通の目標、共通の支援方法であたることが重要である。

もちろん、誰が、いつ支援に入るかは重要であり、その意味で人的配置は必要といえるが、たとえ人的配置が潤沢になっても、その子どもにどのような目的で、どのような方法で支援するかが、明確になっていないと、単に「付いていて」「指示する」だけの存在になりかねず、その意味で、専門的な方の指導を受けたり、ケース会議等で具体的な支援方法まで検討するなどして、よりよい支援方法を求めていくことが必要である。
- 「ユニバーサルな授業」という考え方があり、これは特別支援教育の研究で得られた知見を、通常学級の授業に中にも取り入れ、全ての生徒がより分かりやすく、意欲をもって学習に取り組めるように工夫するというものである。
 - ・学習に見通しが持てるよう、授業の目標とその進め方を生徒に予め提示する。
 - ・板書等の仕方を整理・統一して、授業展開が視覚的に捉えられるようにする
 - ・絵や写真、電子黒板等視覚的機器を積極的に導入し、視覚的に理解できるようにする。
 - ・指示や説明は、できるだけ端的に行い、聴覚による情報処理の苦手な生徒も、理解しやすいように心がける。

このような工夫は「魅力ある授業づくり」「居心地のよい学級づくり」という日常の教育活動の充実に結びつくものであり、「不登校生徒を生まない」という未然防止の第一歩となり得る。